

2002年(平成14年)

8月23日 金曜日

発行所
 (株)大阪建設工業新聞社
 大阪市中央区谷町2-3-3ビジョンビル
 〒540-0012
 電話(06)6942-3906(代)
 FAX(06)6942-3888

大阪建設工業新聞

第2585号 (火・金曜日発行、昭和51年6月12日第三種郵便物認可)

機動建設工業「SPC工法」

大工大八幡 せん断実験で高強度実証

機動建設工業(木村信彦代表取締役社長)は、鋼トラス桁を埋設したプレストレストコンクリートを場所打ちで施工して、合成構造



「SPC工法」の普及へ意欲を示す木村信彦社長(左)と木村勝彦副社長

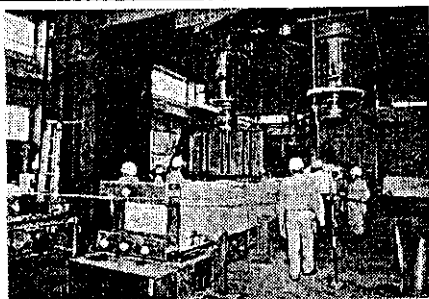
橋梁を支保工なしで架設する「SPC工法」(Steel Prestressed Concrete Composite Structures)のせん断実験は、七月から同大

断実験を三十一日、大阪工業大学八幡工学実験場構造実験センター(八幡市美濃山一ノ谷)で公開した。この後、SPCの供試体鋼とコンクリートの長所生かし安全、低コスト

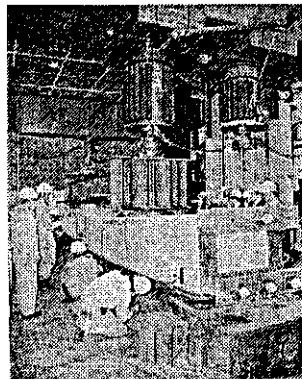
学的小林和夫、井上晋高教授の指導を受けながら大型供試体による一体性と曲げ、せん断、疲労に関する性状・耐力の確認実験を行っているもので、この日、挨拶に立った木村社長は「我が社が基本概念を二九六〇年代に開発し、改善を重ねてきたSPC工法は厳しい経済情勢の今こそ有効な工法。今回の実験結果を生かし、更なる普及を図りたい」と意欲を披瀝した。

この後、SPCの供試体の省略、移動足場の簡略化、安全性の向上が図れる――などで、工期短縮、コスト削減を実現。市街地や交通量の頻繁な道路との架橋点、溪谷、沼地などの架橋に有効性を発揮する。

今後、同社では今回の実験結果を踏まえ、SPC橋梁の設計法を確立し、複合・合成橋梁の新しい分野としての地歩を築きたいとしている。



▲せん断実験で最大1300kNの荷重がかけられ、鋼とプレストレストの合成構造の強度が確認された



鋼とコンクリートの長所生かし安全、低コスト

今後、同社では今回の実験結果を踏まえ、SPC橋梁の設計法を確立し、複合・合成橋梁の新しい分野としての地歩を築きたいとしている。